

(3) 調書「日獨伊三國條約各種本文作成及國內手續經過中概

3376

九月十九日

午後三時ヨリ宮中ニ於テ御前會議開カレ、參謀總長宮、軍令部長宮、近衛總理大臣、松岡外務大臣、河田大藏大臣、星野金靈院總裁、原樞密院議長、澤田參謀次長、近衛軍令部長參列、左記ヲ議題トシテ審議ヲ定メラル

日獨伊三國條約締結ニ關スル件（御前會議議題）

日獨伊樞軸強化ノ爲別紙要綱ニ依リ獨伊兩國政府交渉ヲ遂ケ日獨伊三國間ニ條約ヲ締結スルコト

要綱

「日本國ハ歐洲ニ於ケル新秩序建設ニ關シ獨逸國及伊太利國ノ指導的地位ヲ認メ且之ヲ尊重スルコト

外務省

（日本經濟年報）

INT 630

94

(3) 調書「日独伊三國條約各種案文作成及國內系統經過中」

3376

三 獨逸國及伊太利國ハ大東亞ニ於ケル新秩序建設ニ關シ日本國ノ指導的地位ヲ認メ且之ヲ尊重スルコト

四 日本國、獨逸國及伊太利國ハ前記ノ趣旨ニ基テ努力ニ付相互ニ協力スルコト

五 右三國ノ中一國カ現在ノ歐洲戰爭又ハ日支紛争ニ參入シ居ラサル一國ニ依リテ(公然ト又ハ陰密ニ)攻撃セラレタル場合ニハ有ユル政治的、經濟的及軍事的方法ニ依リ相互ニ援助スヘキコト

六 日本國、獨逸國及伊太利國ハ相互相倫リ現ニ變化シ又變化シツツアル世界情勢ニ適應スヘキ世界新秩序ノ建設ニ依リテノミ平和ノ公正ニシテ恒久的ナル基礎ヲ造リ得ルモノナルコトヲ信シ其ノ實現ニ關スル各自ノ努力ヲ整調結合スルコト

3377

「日本國ハ歐洲ニ於ケル其ノ特殊利益ニ關シ獨逸國及伊太利國ノ指導的地位ヲ認メ且之ヲ尊重スルコト」

「日本國、獨逸國及伊太利國ハ前記ノ趣旨ニ基テ努力ニ付相互ニ協力スルコト」

「右三國ノ中一國カ現在ノ歐洲戰爭又ハ日支紛争ニ參入シ居ラサル一國ニ依リテ(公然ト又ハ陰密ニ)攻撃セラレタル場合ニハ有ユル政治的、經濟的及軍事的方法ニ依リ相互ニ援助スヘキコト」

「日本國、獨逸國及伊太利國ハ相互相倫リ現ニ變化シ又變化シツツアル世界情勢ニ適應スヘキ世界新秩序ノ建設ニ依リテノミ平和ノ公正ニシテ恒久的ナル基礎ヲ造リ得ルモノナルコトヲ信シ其ノ實現ニ關スル各自ノ努力ヲ整調結合スルコト」

3376

法に違ふが點應に容疑を起さずして、陳大勇の強てを問ひ
 謝して、其意事を許してを免る者なり。○
 問に陳大勇「ヨリを主」一語雖も「ヨリを」の「ヨリ」で「一
 人」を以て「主」として許すに在りて、以上三語に翻るべし大
 胆に實
 二語を以て「主」として許すに在りて、以上三語に翻るべし大
 胆に實
 二語を以て「主」として許すに在りて、以上三語に翻るべし大
 胆に實

001 080 TMI

3376

シテ、私亦容易ニソノ運事ハ來ナイテアタウト陳想シマ
タトコロ、果シテ來マセンヲシタ。私ハ鄭ト催促セスニ放ツ
テ置キマシタ。然ルニ、「リッパシトロップ」外相ハ其東洋
問題ニ關スル機力ヲアルト言ハレテ居リマスル、「ハインリ
ヲヒ・スターマー」總領事ヲ公使ニ昇任セシメタ上、八月二
十三日「ペルリン」出發、急遽「モスコ」ヲ經テ、本邦ニ
送ラタノテアリマス。同公使ハ九月七日朝東京ニ着キマシタ
ノテアリマスカ、本大臣ハ別ニ急イテ會ヒタイ態度ハ示サナ
カフタノテアリマス。トコロカ九日先方ヨリ會見ヲ申出テマ
シタノテ、人日ヲ避タル爲同日私ノ私邸テ、同公使及「オッ
」大使ト會見致シマシタ。アレカラ十日二度目ノ會見ヲ遂

INT 630 104

(3) 調書、曰独伊三國條約各種案文作成及以國內手續經過等概

3752

3376

IMT 650

(3) 調書曰：「獨伊三國條約各種案文作成及以國內統經過等事概

第二項ノ「大東亞ニ於ケル新秩序建設」ト云フ「大東亞」ノ意味ハ只今ノトコロ佛印、「タイ」嶺、「ビルマ」、海峽殖民地、蘭印ヨリ「ニューギニア」、「ニューカレドニア」等ヲ含ム「オセアニア」ノ島嶼ヲ含ム意味ヲアリマシテ、此ノ

乙、要綱ノ説明

第一項ノ日本ハ歐洲ニ於ケル新秩序建設ニ對スル獨伊ノ指導的地位ヲ認メ且之ヲ尊重ストアリマスカ、當方テハ當初「フリカ」ニ於ケル新秩序建設ヲ先方カ持出スカト思ツタノヲコソリマスカ、先方カ之ヲ持テ出サナカタカラ、單ニ歐洲ニ於ケル新秩序建設ニ對スル地位承認ニ限ツタ次第デアリマス。

第二項ノ「大東亞ニ於ケル新秩序建設」ト云フ「大東亞」ノ意味ハ只今ノトコロ佛印、「タイ」嶺、「ビルマ」、海峽殖民地、蘭印ヨリ「ニューギニア」、「ニューカレドニア」等ヲ含ム「オセアニア」ノ島嶼ヲ含ム意味ヲアリマシテ、此ノ

(3) 調書「日獨二國條約各種案文作成及國內手續經過中概

3376

尙別ニ條約附屬文書ヲ作成致シマシテ、本條約成立後速ニ英、柏林、羅馬ニ軍事及經濟ノ混合委員會ヲ組成シ、本條約ノ題旨ニ基キ、實行ニ關スル詳細ナル取極ニ就テ研究セシメ、政府ニ提示ノ上政府ノ承認ヲ求メシムヘキコトヲ規定シタイト思ヒマス。又獨伊兩國力「ソ」聯ヲシテ本件條約ノ題旨ニ同調セシメ且我國ト「ソ」聯トノ國交調整ニ斷斷ノ努力ヲ熟ルヘキコト竝ニ徹底力我方ニ對シ戰爭資材及技術裝置要スレハ技術官其惣ノ人員等ヲ供給シ、許稱其ノ能ヨリ石面ノ獲得ニ協力シ、又我方ヨリモ供給シ得ルモノナラハ、戰爭資材及負擔其ノ他生活必需品並技術ヲ供給スル等ノ事ヲ約束スルコトニナラウト思ヒマス。形ハ一面相互ノ辭句トシナケレハ

(3) 調書 曰 独伊三国條約各種案文作成及以國內手續經過等

(3) 調書曰：「獨伊三國條約各種案文作成及以國內系統經過等概

丙、續首

今國ノ對獨交渉ノ基礎ハ平沼内閣時代ノ夫レト金ク異ツテ
リマス。即チ獨逸獨モ日本ノ歐洲戰爭參加ノ必要ナシト言明
シテ居ル次第デアリマシテ、獨逸ハ米國ノ參戰ヲ、日本ハ日
米衝突ヲ、回避スル事ヲ共通目的トシタノデアリマス。從テ
皇國政府ガ從來採ツテ來マシタ不介入ノ方針ハ、將來條約
ニヨリ影響セラレルコトアルベシト云フ豫想付ニテ、一應ハ
繼續セラレル次第デアリマス。

米國ハ「カナダ」トノ共同防衛ヲ決定スルヤ、問モナク、日米間ノ詳細ナ問題ニ迄、殆ント塔ヘ雖イト思ヘルガ如キ態度ヲ以テ臨ンデ來マシタノデ、本大臣ハ已ムナク此程嚴肅ニ米

[illegible]

[illegible]

大統領及國務長官ノ以名を以テシタヤウナ次第デアリマス。
最近ノ動キニ就キ觀察シマスルニ、米國ハ太平洋及ヒ南洋方
面ニ亘リテ、已ニ施シ若クハ現ニ施シツツアル軍事施設ニ加
フルニ此ノ際急躍的ニ且取急イデ澳洲、新西蘭、印度、「ビ
ルマ」其ノ他ノ南方ニ於ケル英領ノ必要地點ニ、有力ナル軍
事根據地ヲ獲得シ、以テ日本包圍ノ陣形ヲ終ヘントシテ磨ル
ノデハアルマイカト、「カナダ」トノ前造共同防衛ニ關スル
協定成立ガ報セラレマシタル時、本大臣ハ已ニ想像シタノデ
ゴザリマスガ、數日來突然英帝國及ビ澳洲政府ト米國トノ間
ニ、協議進行中ノ旨ノ、可ナリ信ズルニ足ルト思ハルル新聞
報道サヘ傳ヘラルルニ至リタデアリマス。又殺キト支那事

(3) 調書曰：「獨伊三國條約各種案文作成及以國內系統經過等。

2378

[illegible]

3376

ニ依リテ、米國ニ對抗スル事ガ、外交上喫緊事デアルト信スルノデアリマス。然シ本大臣ハカカル措置ノ反響ノ至效果ヲ注視シツテ尙本トノ國交ヲ轉換スルノ機會ハ、之ヲ見逃サナイ用意ヲ當ニ怠ラナイ覺悟デゴザリマス、唯ソレニシテモ、一應ハ非常ナ緊イ決心ヲ以テ毅然對抗ノ態度ヲ、中外ニ向ツテ一點疑ヒヲ容ルル餘地ノナイマデニ、明確ニ示サナケレバナリマセス。此ノ點ハ本條約締結ニ伴フ最重要ナル點デアリマスカラ、最後ニ之ヲ反覆シテ置キマス。

次ノ近衛總理大臣ハ質疑ノ向ハ之ヲ遮ハラレ度シト告ケ、質疑難答アリ、後參謀總長官及軍令部次長官ヨリ夫々意見ノ御開陳アリ、原樞密院議長亦意見ヲ述ブル所アリタルモ、原案ニ反對ナク、總

IMT 630

117

(3) 調書「曰伊三國條約各種案文作成及以國內手續經過手續

[illegible]

理大臣ハ原案可決ヲ宣シ、御人御ノ後、参列者各議ニ花押、紙
イテ上奏手續ヲ訊ル、其間約三時間半ノ長キニ及フ
午後九時半、依命、齋藤副總理山縣書官ト共ニ獨逸大使館ニ至リ
日英衝突ノ場合ノ獨伊側ノ援助問題ニ關スル公文中文句ヲ修正シ
タル新案及、獨伊兩國ノ大東亞ニ於ケル商工業上ノ特權問題ニ關
スル萬方ノ案ヲ提示シ、先方謁議ナク、直チニ「ペルリン」へ贈
訓ヲ約ス、其餘同範圍ノ邊ヘタル點、略ホ左ノ如シ
「日英衝突ノ場合ノ獨、伊ノ援助ニ關スル條項ハ日本側ニ於テ相
當重キヲ置ク點ニシテ、日英衝突ノ可能性相當濃厚ナ源、此條
項ニ關スル貴我ノ了解ハ、我方ニ於テ本條約及附屬書ヲ通過セシ
ムルニ於テ、内政上極メテ重要ナル問題ナリ、松岡外相ヲシテ

(3) 調書曰：「獨伊三國條約各種案文作成及以國內系統經過手續」。